

必修分野	救急部門（麻酔科）研修プログラム
研修受け入れ科	麻酔科、中央手術部
研修プログラムの概要・特徴	<p>麻酔科は、診療面においては近代医療の一端を担いながら、研修医、麻酔科専攻医、麻酔科学に関心ある人に、広く研修と勉学の機会を提供し、次世代の人材を育成することを目標にしている。麻酔科の研修医は、以下の研修目標に即して基本的技術と知識を修得し、併せて、全身管理に関する論理的な考え方や進め方（思考過程）を学ぶ。さらに、救急患者、重症患者に必要な対応技術と知識を修得する。</p>
研修の目標	<p>【 一般目標 】 研修医は、厚生労働省の臨床研修到達目標（行動目標、経験目標）を中心に研修を行い、生命維持に関する技術及び知識を修得する。</p> <p>【 行動目標 】</p> <p>1) 術前診察 患者・家族が納得でき、安心して手術麻酔を受けられるような患者・医師関係を築くことができる。 患者の全身状態やリスクを把握し、手術に必要な麻酔管理法を指導医とディスカッションし、手術麻酔、全身管理に関する説明ができる。</p> <p>2) 症例呈示 麻酔科モーニングカンファレンスに参加し、チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な麻酔症例呈示を行い、討論ができる。</p> <p>3) チーム医療 周術期管理チームの構成員としての役割を理解し、他科の医師やコメディカルスタッフと協調し、指導医に適切なタイミングで相談できる。</p> <p>4) 問題対応能力 患者の問題点を把握し、問題対応型の思考を行い、その問題を解決するために情報を収集し、指導医に適切に相談できる。</p> <p>5) 安全管理 医療行為を行う際の安全確認、危機管理の考え方を理解し、実施できる。医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルに沿った行動ができる。</p> <p>【 麻酔科研修目標 】</p> <p>1) 気道確保の技術を習得する。 2) 呼吸状態の評価法と基本的管理法を習得する。 3) 循環状態の評価法と基本的管理法を習得する。 4) 意識状態の評価法を習得する。 5) 全身状態の評価法を習得する。</p>

	6) 医療に対する安全確保の原則を習得する。
研修の方略 (スケジュール等)	<p>麻酔科研修責任者及び中央手術部研修責任者に加え、准教授・講師・助教・診療助手・医員によりそれぞれのレベルの指導が行われる。手術部ではその日の麻酔責任者(スーパーバイザー)が決められており、麻酔の運営及び指導が行われる。</p> <p>研修医は麻酔担当医として、当日のスーパーバイザーと麻酔担当指導医の指導下に、実際の麻酔を担当しながら、生命維持及び全身管理法について指導を受け修練する。基本研修期間は原則として1ヶ月以上とする。患者に侵襲的な手技を実際に行う前にはマネキンを用いたシミュレーションなどによる訓練を十分実施する。</p>
研修の評価	各研修医の研修医手帳に記載された到達目標の達成度の最終点検を、各指導医とともに行う。
研修実施責任者	<p>麻酔科研修実施責任者 麻酔科長：山本 達郎</p> <p>中央手術部研修実施責任者 中央手術部副部長：生田 義浩</p>
研修指導責任者 (指導医)	(正) 杉田 道子(4-6月)、山田 寿彦(7月-) (副) 野中 崇広
その他特記事項	<p>研修医セミナー：不定期</p> <p>麻酔科抄読会：毎週月曜 17:00 から中央手術部麻酔科医控え室にて</p> <p>麻酔科・集中治療部合同カンファレンス：毎月最終月曜 17:00 から 中央手術部麻酔科医控え室にて</p>